

きもの文化を通じて持続可能な社会づくりに貢献

3 すべての人に
健康と福祉を



いわきや大和店はお客様の利便性を考え、駅ビルからフォトスタジオ・キュンティア（宮村ビル3F）へ店舗を統合しリニューアルいたします。

今までの駅ビルの営業は、休みは元旦の1日だけ、だれもないフロアで夜9時まで営業しているのはエネルギーの無駄使いだけでなく、若い女性スタッフの夜遅い勤務や帰宅には不安も感じます。

いわきやは、

大和店の店舗を統合し、仕事と子育てが両立しやすい職場環境を整えることはもちろん、ベテランズと呼ばれている七十代後半のスタッフにも豊かな経験を活かしいきいきと働き続けてもらえるようにします。

それとともにさらに地域に密着した営業スタイルで、よりよいサービスを提供してまいります。

8 働きがいも
経済成長も



13 気候変動に
具体的な対策を



12 つくる責任
つかう責任



昔から言い伝えられている「小豆三粒包める布は捨てるな」という金言があります。

「どんなに小さな布でも大事にとっておけばいつか役立つときがある」という先人の教えですが、実際に古くなった着物を解いて、蒲団→座布団→袋物→布草履などと順番に活用してきました。

着物はずっと昔からエコだったのです。

しっかりお手入れすれば、祖母から母、母から娘へと、何代にも渡って受け継いでいくことができるのも着物のすばらしさです。

いわきやは、

『きものクリニック』を通じて長くお召いただけるようお手伝い、『ゆずり葉の会』を通じて着物のリユース・リサイクルで次の方にお渡し、など作り手に感謝し物を大切に作る日本の美德を発信し次の世代に伝えていきます。

11 住み続けられる
まちづくりを



日本の豊かな自然と四季の変化の中で、祖先代々変化しながら受け継がれてきた着物は日本が世界に誇る文化だと思います。

日本各地の気候や風土に合わせた工夫が職人によって磨かれ、今日まで伝統工芸として継承されてきました。

普段の生活の中で着る機会は少なくなったとはいえ、大切な場面では着物の出番です。

いわきやは、

『伝統産地のご紹介』や『実物を見て・触り・聞く』で着物の価値を知っていただく

『着付ボランティア』や『地域のお祭りへの参加』で気軽に着物に親しむ

などを通じて、地域の方々に着物文化を伝え、豊かな地域文化の育成を手助けします。

4 質の高い教育を
みんなに



『振袖デザインコンペティション』

ファッション系専門学校の学生さんがデザインした振袖を、京都のメーカーと協力して制作。

消費者の好みや若い感性を取り入れた振袖デザインを製品化して販売、新たなマーケット開拓にチャレンジしています。

いわきやは、

産学連携の取り組みをこれからも継続いたします。

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



『日本の技・伝統文化を世界へ』

銀座いわきやは、「馬ときものを結ぶ」、「馬と人を結ぶ」、「人と人を結ぶ」

京友禅と西陣織の伝統文化的価値を日本のみならず世界に広めるべく活動しています。

着物のみならず、京都の伝統技術で馬やペット・ご家族の姿を「織・染」に表現する美術作品を展開。

いわきやは、

伝統の技術を新たな分野で活かして価値を生み出すことで、伝統技術の継承と発展に貢献してまいります。